

氷上の最高芸術

特集 世界フィギュアスケート国別対抗戦2025

新聞委員会は、4月17日から20日まで東京体育館で行われた世界フィギュアスケート国別対抗戦2025に高校生記者として招待された。私たちは19日に行われた女子フリーを取材することができた。ここでは、その様子をお届けする。(編集部共同取材)

総合競技結果

順位	国	総合ポイント
1位	アメリカ	126
2位	日本	110
3位	イタリア	86
4位	フランス	78
5位	カナダ	72
6位	ジョージア	68

大会4日間の競技を通じた総合結果
アメリカは前大会に続いて連覇となった。



華麗な演技で会場を魅了する選手たちを取材することができた
写真は女子フリー演技中の坂本花織選手

20時頃から行われた女子のフリープログラム。6か国から2名ずつの選手が登場し、会場を沸かせた。各選手が自身の選曲に合わせたパフォーマンスを披露していく中、一際目立ったのは6番目に登場したアメリカのアンバー・グレン選手。1本目のジャンプから難易度の非常に高いトリプルアクセルを着氷すると、会場は拍手喝采。その後も次々とジャンプを成功させ、会場のボルテージが上がっていく。4分間の演技をミスなく終えたグレン選手に会場からはスタンディングオベーションが送られ、リンクにはブレゼントが飛び交った。アンバー選手をはじめとするアメリカ選手が送られた。

リカベンチも大喜びの中、発表された得点は148.93点。自己ベストを更新かつ2位と30点以上の差をつける高得点に会場からは惜しみない拍手が送られた。

そして最後に登場したのはシヨートプログラム1位のアメリカ、アリサ・リウ選手。最後の登場ながらも緊張を感じさせず、終始笑顔で演技している姿が印象的だった。繰り出されるジャンプやスピニングの美しさに圧倒された。思わず会場までもが笑顔に包まれてしまうようなアリサ選手の迫真の演技に四方から大きな拍手が送られた。得点は150.97点。この日唯一の150点台に会場からは大歓声が巻き起こった。

拍手鳴り響くリンクサイドで高校生記者が取材

演技を終えたばかりの選手へインタビュー



ペアフリーで優勝したりくりゅうとばしやり

各競技終了後、選手がメディア対応を行うミックスゾーンにて競技を終えたばかりの選手に取材することができた。ここではこの日、同じく招待されていた立川高校新聞委員会の方々が行った取材の様子をお伝えする。

笑顔で取材に応じてくれたりくりゅうペア

ペアフリーで見事優勝に輝いた三浦璃来選手、木原龍一選手の通称りくりゅうペア。試合前の公式練習から仲睦まじい様子で会話している姿が印象的だった。そのことについて質問してみると、2人は「割と試合と関係ないことを話していることが多いです」と回答。試合前は、あえて関係ないことを話すことで、試合との切り替えを大切にしているようだ。試合後の疲労を見せることなく、多くの報道陣の質問に対して一つ一つ丁寧に回答しており、私たち高校生記者の質問にも笑顔で丁寧に答えてくれる姿が印象的だった。



和やかな雰囲気で行った取材に応じてくれた仏シールド選手

海外選手インタビュー「日本の応援に感謝」

イタリアのサラ・コンティ、ニッコロ・マチューペアに話を伺うことができた。2年前にも試合で訪れているという日本の印象について聞いてみると、2人は毎回お客さんの応援に驚きを感じるとともに



感動と絆を語る伊ペア

感動していると話してくれた。日本のお客さんはパフォーマンス内容や国籍の壁を越えて応援してくれてありがたいと感じるようだ。何回きても、観客の情熱には驚かされると語り、フランプリファイナルで日本に帰って来られたらうれしいと語ってくれた。

通訳の方を通じての取材となったため、自分の質問が通じるのか不安もあったが2人が笑顔を交えながら質問に真摯に答えてくれたため、安心して取材することができた。(蘭)

- ▽ソフトボール部 4月20日 第75回関東大会都予選 都大会進出決定
- ▽空手道部 4月21日 都ベスト16進出
- ▽男子組手 田原迫陸斗(1L) 予選通過
- 4月27日 予選通過
- 4月27日 女子団体形 6位入賞
- 女子個人形 安武里紗(1G) 8位入賞
- ▽男子バスケットボール部 4月13日 関東大会予選4回線進出
- ▽体操部 4月27日 女子学年別3年生大会 団体3位入賞
- ▽男子バスケットボール部 4月13日 関東大会予選4回線進出
- ▽球技大会実行委員会 4月24日(木)
- ▽体育学芸委員会 4月25日(土)
- ▽錦城祭企画説明会 4月25日(土)
- ▽予算会議 5月2日
- ▽球技大会キャプテン会議 5月9日(金)
- ▽代議委員会 5月13日(火)

大会報告

- ▽ソフトテニス部 5月4日 2025年度東京都高等学校春季ソフトテニス団体選手権 ベスト16進出
- ▽生徒会動静 4月24日~5月14日
- ▽球技大会実行委員会 4月24日(木)
- ▽体育学芸委員会 4月25日(土)
- ▽錦城祭企画説明会 4月25日(土)
- ▽予算会議 5月2日
- ▽球技大会キャプテン会議 5月9日(金)
- ▽代議委員会 5月13日(火)

ダイナミックな動きで会場を沸かせる

特別にリングサイドから撮影させてもらいました!

リンク間近から取材

会場を盛り上げた米アリサ選手

会場を魅了するペアフリーの選手たち

日本スケート連盟にも取材 「伝える力を生かして」とメッセージ

日本スケート連盟副委員長 伊東秀仁さんと山崎弘雄さんに話を伺った。伊東さんによると、東京都に会場を借りていることへの返礼として様々な企画が実施されたそう。この企画の一環として今回高校生記者が招待された。その他にも抽選で選ばれた30名の小中学生が無料で大会のバックヤードを見学できるツアーや、プロの選手に直接教えてもらえるスケート教室などが実施された。

お二人はフィギュアスケートの魅力をスポーツだけでなく芸術性を伴っていることだと話す。「テレビで見ると音が聞こえ方、スピード感、じかに伝わってくる迫力というのが圧倒的に違うので、ぜひ実際の会場まで足を運んでほしいです」と話した。

「こういう機会にスケートに興味を持ってくれたなら、これを伝えることができて、それが受け取ってそれを伝えてもらうのが皆さんだと思っていますので、「伝える力」を全力で生かしてほしいです」とメッセージをくれた。

今回、スケート連盟の方々のお話や実際の観戦で、スケートが総合芸術であることを実感し、また生観戦することの迫力を感じることができた。

編集後記

人生で初めて生でスケートを観戦したのですが、選手たちの魂のこもった華やかな演技を間近で見ることができて、感動しました。また、プロの記者の方たちにも混ざりながら選手の方々にも取材をすることができ、とても貴重な経験になったと思います。(蘭)

テレビの中では感じられないスピード感や会場の張りつめた雰囲気などを含めての総合芸術だと改めて思いました。また、インタビューでは手が届くほど近い距離で私たちの話を親身に答えて下さり、編集部に入ってよかった、と心から感じました。(仏)

カメラ担当だったので、アイスリンクの真横で撮影をさせて頂くことができました。選手が着氷するときの振動や宙に舞う細かい氷の粒まではつきり見えなくて感動でした。今まで知らなかった世界に触れられて良い経験ができたと思います。(風)